

平和宣言に関する懇談会の開催結果について（概要）

1 第1回目〔6月3日（水）〕

最初に座長である松井市長から、今後4年間の平和宣言で、世界の人々が、核兵器のない世界に向けて積極的な取組を行うための原動力となる信念確立において大切な行動理念及び行動方針を提示する考えを説明した。その後、今後の平和宣言の構成や今年の平和宣言に盛り込む内容などについて議論した。

主な意見は次のとおり。

(1) 平和宣言の構成について

ア 為政者は、国家間の対立が発生したときに、敵味方を問わず、協力して解決する責任があることを訴えたい。

イ 「こんな思いを他の誰にもさせてはならない」という被爆者の思いを伝えるため、引き続き、被爆者の体験を宣言に盛り込みたい。

(2) 平和宣言に盛り込む内容について

ア 一人一人がどのように核兵器の廃絶に取り組むべきか次世代に訴えたい。

イ 被爆から70年間、常に核戦争や核爆発に至りかねない事件や事故があったこと、また、テロリストによって核兵器が使われる可能性があることを宣言に盛り込みたい。

ウ 日本人だけが被爆したのではなく、多くの外国人被爆者がいたことを伝える必要がある。

2 第2回目〔7月1日（水）〕

第1回目の懇談会での議論を踏まえて作成した平和宣言の骨子について議論した。

主な意見は次のとおり。

(1) 平和宣言の骨子について

ア 今までの平和宣言の構成を維持しながら、被爆70年として、特に被爆の実相に関する記載を増やしたい。

イ 被爆70年は、宣言で被爆者への感謝を捧げるとともに、節目の年として、核兵器廃絶に向けた新たな行動の出発点と位置付けたい。

ウ 核兵器廃絶に向けた取組に当たっては、誰もが参加できる、誰もが貢献できるという要素を入れたい。

3 第3回目〔7月21日（火）〕

前回の議論及びその後各出席者から個別に聞き取った意見を踏まえた文案を提示し、それに基づいて議論を行った。

主な意見は次のとおり。

(1) 平和宣言文案の検討について

ア 難解な言葉はなるべく使わず、平易な表現を心がけてほしい。

イ 被爆70年に当たり、核兵器廃絶に向け若い世代に行動を始める重要なタイミングであることを呼び掛けたい。

ウ 核兵器廃絶のため為政者同士が対話を重ねることの重要性を宣言でしっかり指摘してほしい。

エ 為政者の被爆地訪問の呼び掛けは、オバマ大統領の名前を明示したうえで行ってほしい。